

# 仏法領ぶつぽうりょう

第76号

発行：真宗大谷派  
念信寺  
〒824-0202  
福岡県京都郡みやこ町厚川上高屋761  
☎ 0930-42-0329  
Fax 0930-42-0502  
ホームページ  
nenshinji.org



(写真・文 大迫光浩)

ふるさとの未来

五年後、十年後のふるさとはどうなっているだろう

田んぼには、苗がなびき

子どもの声が聞こえ

笑顔が溢れているだろうか

そんなことを考えていると

誰かと語り合いたくなる

出来ることを探して

皆で語り合えば

何か思い浮かぶかもしれないか

ら

未来について、話してみませんか

## 「終活」とお寺

上高屋地区の祭壇組合の解散式が7月初旬に行われる。葬儀を自宅で行わなくなり、組合で所有していた祭壇も使われなくなって10年くらいになる。ひとつの節目を迎えたということだろう。

葬儀屋さんが入ってきて地域の手を離れていったのが一九五五(昭和30)年以降で、葬儀が高額になるので互助会が流行っていた。一九九〇(平成二)年頃まで葬儀は祭壇を用いて盛大に行う社会儀礼となっていたと言われている。バブルが崩壊した一九九五(平成七)年以降、葬儀は個人化、少人数化している。

現在は盛んに「終活」(人生の終わりのための活動)が週刊誌などで取りあげられ、家族葬、永代供養墓などが目にとまるようになった。喪主が遠くに住んでいて、その次の世代も何処に住むかわからない状況ではやむを得ないかも知れない。しかし気になるのは、葬儀やお墓は単なる遺体やお骨の処理作業で、遺体やお骨は不要な厄介物なのだろうか。遺体やお骨は単なるモノではなく、故人の人格や人生を受けとるための縁ではないのだろうか。

仏教が民衆の葬儀にかかわるようになったのは、室町時代後期一五〇〇年代後半からだと言われる。村々共同体ができたということ、誰もが弔われる価値のある人生だと教えられたのである。江戸時代に檀家制度が法制化され、全ての人がどこかの寺に属し、葬式を檀那寺で行うことが義務になった。

しかし戦後の民法は、家族は家中心でなく個人の結びつきが強調されるようになり、親から子へと世代間の引継が難しくなり、檀那寺をもたない人々が増え、葬儀や法事も商品として消費者が選択するものとなりつつある。

家は結婚、出産、子育て、病人・年寄りの介護、看取り、葬儀、法事と「いのち」を営み、受けとる場所であった。お寺はそのような家や村の仕組み、生活方法、習慣と共存していた。「いのち」を仏教により学ぶ仕組みがお寺なので、お寺や仕組みが先にあるのではない。過疎化、高齢化が進み、お寺でも課題が出てきているが、「いのちの学び」という基本を大切にして、現代人の生活にマッチした仕組みでお念仏の教えを届けたい。





行橋在住のSYさんを

ご紹介します！

Yさんは S さんの次男として下伊良原に昭和二十一年二月に生まれられ、二十六歳くらいから行橋に住まわれているそうです。

お父様の S さんは豪快な方で、住職も若い頃随分お世話になりました。そのお父様の血をひかれてお酒は結構いけるらしいのです。毎月、日曜夕方には月参りをするのですが、お参りが遅くなったときには晩酌をなさっていた時もあるかもしれません。大事になさっていた焼酎をいただいたこともあります。(笑) いつも住職または K さんの訪問を待っていて、奥様の N さんと仲睦まじくお参り下さっています。

自動車関連の仕事をなさっていて、子供さんを3人育て上げられました。お母様の E さんは、楽しみにしていたダム視察の数日前に倒れられて13年になるそうです。 E さんがお元気な頃は、



御正忌には丹精した野菜を届けて下さり、なにかと親切にして下さいました。

故郷への想いを聞いてみました。行橋に出て良かったことは、通勤が近くなったこと。だけど、

田舎の方がよかったですとおっしゃいます。子供たちも五月の頃の祭りが楽しかったと言うし、田舎の方が表面的でない、繋がりがあったと。自分たちにはダムができて故郷がなくな

ってしまっただが、過疎になってほしくない、賑わってほしいとおっしゃいます。若い頃は通勤のため、その後はダムのため、近くではありますが、故郷を離れた S さん。そんな状況で大事なことを模索しているように住職には思えます。頭でっかちでなく、偉そうにせず、人間らしく実直な人柄は得がたく、今後ともよろしくお願ひします。

◆故郷とわたし◆



私の思い

はじめまして。内田直志(ただし)と申します。今年の4月に行われました町議会議員選挙によって4年間、議席をお預かりさせて頂いたこととなりました。精一杯頑張りますので宜しくお願ひ申し上げます。



さて、私は2013年に家族と共に犀川帆柱に移住してきました。両親は犀川出身ですが、二人とも高校卒業後郷里を出ましたので私は外で生まれ育ちました。

しかし、両親の帰省に合わせてよく犀川には帰っておりました。山や川でよく遊び、冬には一族で「ダイガラ」を使ってお餅をついたことが楽しい記憶です。しかし、一方で集落から少しずつ空き家が出てきていたことが気になっていました。

大人になって横浜に就職しましたが、心の片隅にはいつも両親の故郷のことがありました。住んだことはないけれどいつかは帰るべきか。自分が帰えらなければ家や、墓や、山はどうなるのだろう。定年を迎えて帰るといふことも考えましたが、人が減

っていく中でその頃に集落は残っているのか、家族は恐らく反対するだろうと、悶々としました。そうする中で「過疎化」ということが私の中で明確に問題意識として生まれてきたのです。

現在全国には約1700の市町村がありますがその約半数で過疎化が進行しています。それはつまり私たちの故郷の約半数がなくなろうとしているのです。これは時代の流れだから仕方ないのか。私はそうは思いません。一旦なくした故郷は二度と戻ってきません。全国ではなんとか自分の故郷を再興しようと取り組みがなされています。みやこ町ももつとできることがあるのではないかと。できるだけのことをやりつづけたのか。それが私の思いです。

現在子供3人と妻で里の暮らしを満喫しています。ご迷惑も多かけますし、大変なこと多いですが得難い、そしてこれからもずつと続いてもらいたい暮らしの数々、そして感謝の日々です。これから百年も故郷が残ってくれますよう頑張っています。

●内田さんにはお寺の読書会でアドバイザーを引き受けてもらっています。今回トップ当選、現状打開の期待が大きいということでしょう。

みかんや柿に期待する

柳瀬 N

私は、昭和二十二年に大熊で生まれ、小学校三年生の二学期まで犀川小学校に通いました。毎朝、父が犀川駅まで歩いて通勤するのに合わせて一緒に通学をしました。が、小学生の私は、父に必死について歩いたことを覚えています。この原稿を書くために距離を調べたところ、わずか一キロ半だったことがわかりましたが、当時はとても長く感じていました。母の実家の柳瀬に引越し、三年生の三

学期に柳瀬小学校に転校しました。家からも見える学校までは五〇メートルほどでしたのでとても楽に通学できました。今川で泳ぎ山芋掘りをした小学校時代、サッカーに夢中になった中学校時代、数学に目覚めた高校時代、今振り返ればとても良き時代でした。高校卒業と同時に柳瀬を離れ、現在は博多で暮らしています。両親が元氣だった頃は、盆や正月に家族で数日泊まる程度で、ほとんど日帰りでした。



十年前に父が亡くなり、その後独り暮らしだった母を大阪にいる妹が連れて帰り面倒を見てくれていました。そのため実家は空き家になりました。幸いにも農業を

したい青年が四年前から住んでくれてます。家を貸す前は月命日など実家に帰ってお参りをしていましたが、家を貸したことから位牌を念信寺に預かっていただいています。今実家に泊まることはありませんが、草取りや庭木の手入れ、梅やみかんなどを取りに折にふれ帰っています。

先日、念信寺で五十回忌法要を行っていただいた折、ご住職から家を受け継いでいた時代から、一代限りの時代が変わってきたというお話を聞き、他人ごとではないなと思いました。四十年以上柳瀬を離れていても、家や田畑、お墓のことは私の生活と共にありました。このことが、娘たちと改めて話すきっかけを与えていただいたような気がしています。今後も梅やみかん、柿ちぎり芋掘りなどに連れて帰り、自然に関心を持ってくれるようにしたいと思っています。三人娘は、まだ若いので関心は低いと思いますが、年を経るにつれて関心を持ってくれればと期待しています。● N さんは福岡市在住、公立高校長を経て現在私立高校の副校長。





### 春のお彼岸 法要レポート

日時 三月三十一日〜四月一日  
法話 祖父江佳乃先生

(名古屋市有隣寺住職)

桜の季節に三年連続ご登場の祖父江先生の法話です。

人は身勝手な「物差し」

で生活しています。自分にとって都合のいい人(事)は良い人(事)となりません。自分にとって都合の悪い人(事)は悪い人(事)となります。いつも自分自身の都合でその物差しは変わっていきます。一方阿弥陀さまは、計ることができない仏さまです。

私たちは生きる為に穀物、野菜、魚、肉等れこれの命を奪っています。善人が悪人と問われれば、悪人です。その罪深い私たちのそのまを受けとめて見守ってくれているのが阿弥陀如来なのです。

親鸞聖人は「阿弥陀さまのご本願は皆さんへ注がれていますよ」との思いから「南無阿弥陀仏」と称えると阿弥陀さまがあなたの側に寄り添ってくださいますよ、お浄土へと導いて下さいます、と。



阿弥陀如来さまのお木像やご絵像の立ち姿は、少し前かがみですが「いつでもみなさんと寄り添えるよう



に」の意味だそう。ちなみに座った仏像は悟っているか瞑想のお姿だそうですね。我々のご本尊である阿弥陀如来のお像に手を合わせるの深い意味合いがあるということです。そのまんまの私を受け入れてくれる阿弥陀さま。汚い醜い私を受け入れてくれます。「手を合わさずに居れない私」が存在します。



そして「お念仏」に生かされて、その仲間の人達と一緒に生きていると実感する所の一つがお寺の「お御堂」でしょうか、との先生のお言葉でした。

我々の帰る場所、お浄土は皆が同じく帰るところです。聞法で救われると見えたときから、人生は変わると言われています。何かのきっかけで手を合わせ、念仏を申すことで信心が少しでも実感できれば法話も大変貴重な機会です。祖父江先生は来春もお越しになる予定だそうです。



いつものおいさん 合掌

### 大失敗の話

このところ寺報の編集委員会を二回ほど連続して欠席しておりました。その理由は、自慢にならぬ私の不注意により八十日間も病院に閉じ込められていたからです。

具体的には、二月二十四日、屋上に設置されているテレビアンテナの結線具合がおかしかったのか、テレビが全然映らなくなった。アンテナに一発蹴りでもくれてやろうかと、一階の屋根から二階の屋根にハシゴを掛けて登っていたところ、ハシゴの足が滑ってハシゴが倒れた。お陰で登攀中の私は一階の屋根に落ち、さらに地上に転落したわけ。まったく動

けず、そのまま救急車にて新田原の新行橋病院行き。検査の結果、頭内クモ膜下に三カ所の出血と背骨に三カ所の圧迫骨折があることが判明。当然そのまま入院となった次第。私の場合は腰椎の手術が必要ということ

で、門司の病院に転院することになった。手術は背中を2センチほど切り開き、そこから骨セメントを流し込んで固定するという

一時間程度で終わる比較的簡単なもの。手術後セメントの固化に一月、腰椎サポートに三か月間の



コルセット装着が必要、という

うことでまた行橋病院に帰って長期入院を余儀なくされた。キズそのものは単なる骨折で特別な治療法があるわけではない。日にちが薬というわけ

そうは言っても痛さは激しい。手術後一か月程は仰向けに寝た切りで、頭が全く上げられない。ひたすら天井を眺めることが続いた。この病気の唯一の正しい治療法がこれかと思ってしまう。

そのために想定外の珍事が起る。オムツ等は着けたことがないので右も左も分からないのに、それを手探りで着けなければならぬので正しく着いているかどうかは不明。用をたす時に間に合わないことが度々。何回フンまみれになったことか。

退院後一か月経ったが、まだコルセットは装着したまま。長い入院のため大腿部の筋力が相当に落ち、歩行に難がある。現在は歩行訓練を続けております。

私の住む集落では、過去にやはり屋根から転落して死亡した人物もいるらしい。歩けるほどに回復していることは、私もまだ悪運が尽きていなと喜ぶべきかもしれませんね。

(阿部正紀 記)

皆さまもお気を付け下さい。2階の屋根にハシゴをかけて登ろうという人はめったにいないと思えますが。(住職)



上高屋、畑屋根地区



約20年、守ってきた仏壇





3/30 世話人会議



3/31 第1墓園總會



3/23 燈畑、楽音寺彼岸会



### お寺の活動



## 皆作・永代経法要のご案内

梅雨ですが、田んぼにはまだ雨が足りないようです。皆さまいかがお過ごしですか？  
ご法座を左のように開催致しますので、どうぞお参りください。

日時 六月三〇〜四月一日

日時	午後一時半〜	午後七時半〜
六月三十日(土)	法話	法話
三十一日(日)	法話	法話
七月一日(月)	法話	法話

### 講師

松月博宣 先生 六月三十〜三十一日昼席

糸島市 海徳寺前住職

### 松月先生のコメント



人は環境に育てられます。私たちは「仏さまのお話」を聞くことのできる環境に恵まれました。  
次の世代に同じ環境を整えていくことも「永代経」を勤めお参りする意味だと思います。

## 法座予定

二〇一九年

### ●盆法要

八月十六(金) 〃  
十七日(土)

※上高屋地区のみのご案内です。

### ●秋彼岸法要

九月二十八(土) 〃  
三十日(月)  
講師 瓜生 崇 師  
(滋賀県)

二十九日(日)夜 落語会

### ●ご正忌・報恩講

十一月二十一(木) 〃  
二十四日(日)  
講師 吉元信暁 師  
(九州大谷短期大学教授)

二〇二〇年

### ●春彼岸法要

三月二十九(日) 〃  
四月一日(火)  
講師 祖父江佳乃 師  
(名古屋市)



4/1 浄真寺の桜取材、NHK夕方放映



●ひとり暮らしの門徒さんが入院なさったと聞いて心配していました。姪御さんが後のこと、本山納金、法座のこと等を本人も気にかけて下さっていたと、ご相談に來られました。お寺は信頼関係で成り立っていることを教えられます。

### 京都組婦人会 役員協議会

4月10日午後、勝山・安勝寺さんにて、各小組の婦人会役員さんが集まり、今年の夏の婦人研修について話し合いました。テーマは昨年と同様「お内仏に手を合わせましょう！」です。一年の歩みの目標にしたいですね。

お内仏に手を合わせ、お念仏申しませう。仏さまの呼びかけが聞こえる人になりましょう。自分の自力の心だけが頼りの人生は暗く閉ざされ、広い世界を知りません。仏法聴聞の喜びを分かち合いたいものです。



4/10 婦人会役員協議会

### 行事予定

#### ●京都組仏教婦人会 夏季研修会

##### 木伊小組

日時 7月5日(金)10時 〃

会場 即伝寺

講師 大久保正信先生 (勝山 唯念寺)

##### 犀川小組

日時 7月10日(水)10時 〃

会場 宝樹寺

講師 野村和彰先生 (小倉 光清寺)

##### ●門徒会 8月初旬

今年雨が少ないようです。夜中、貴重な雨が降った翌朝は待つてましたとばかりにプランターのキュウリとゴーヤの葉っぱが急激に大きく成長しています。立派な実もなり始めました。ネットの調べでは一本の苗木からキュウリ100本は収穫できるとのこと。  
私も100本を目標に朝夕水やりに励み、成長を期待して観察記録を書いています。



### あとがき

今号は田舎をとりまく状況とそれにかかわる人を特集しました。必死で守っているけれど、櫛の歯が抜けるように一軒、また一人と、これまでの生活が維持できなくなっています。  
便利さ、快適さ、手軽さを追求した先に何が残るのか。私自身がそんな生活ですが、大地に立つような、どっしりとした実感を失っていくのではないかと思います。お念仏も仏さまの呼びかけだと受け取れなくなりそうです。



4/4・5 犀川門徒会追形会、下本庄説教場



4/18 京都組同朋のつどい、於浄喜寺



4/12 犀川同朋会、於念信寺

